

汚泥乾燥処理技術をブラジルで活用

東北クリーン開発(株)が汚泥の減容化、再利用を目指す

国際協力機構(JICA)は1月26日、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において東北クリーン開発株式会社(山形県山形市、井上尚代表取締役)が提案する「パラナ州における有機性汚泥の乾燥処理技術に係る案件化調査」(ブラジル)を採択しました。

人口の約8割以上が在住するブラジルの都市部では、下水処理から発生する汚泥を効率的に処理するための施設や技術が不足しているため、汚泥が再利用されずに埋め立てられています。しかし、埋立地は容量が限られているため、埋め立てることができず、汚泥が放置された場合、環境汚染の原因にもなり、汚泥の減容化が課題となっています。

東北クリーン開発(株)が提案する製品・技術は、有機性汚泥(下水処理後の汚泥等)を乾燥させ汚泥燃料を製造するプラントとそのオペレーション技術で、これにより汚泥の再利用が図れ、また、減容化が可能となります。汚泥燃料はセメント会社のセメント原料等への活用が考えられ、廃棄物を最終的に20%程度まで減量化することができるため、埋立地等最終処分場の負担軽減に貢献できます。



汚泥乾燥機



乾燥汚泥燃料

今回の案件化調査では、現地の汚泥処理の状況調査、汚泥燃料のニーズ調査、事業化に向けたパートナー調査を行う予定です。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2016年度第2回分は昨年9月に公示を行いました。36件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考:(プレスリリース)案件化調査2016年度第2回公示の採択結果について

URL:<https://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 東北 市民参加協力課 担当 上野

TEL 022-223-4772 e-mail: Uwano.Midori@jica.go.jp